

## 社長あいさつ



地方部では、少子高齢化が進み人口減少が続いていますが、神奈川県内とはいえ当市もそのような状況が続いています。

どのような社会情勢でも、し尿処理、下水道事業そしてごみ処理は環境インフラとしてなくてはならない事業となっています。

また、カーボンニュートラルの考え方に少しでも寄与できるような行動が求められます。

三浦バイオマスセンターでは、廃棄物をただ処理するだけでなく、バイオガスを発生させ場内のボイラー及び発電機用燃料として活用し、化石燃料の使用を抑制することによるCO<sub>2</sub>の削減に努めています。

また、副生成物としての肥料（Mバイオたいひくん・農林水産大臣登録 生第91564号）は農業者や一般市民に活用され大地に還元されています。

近年、国内未利用資源を使った国産肥料が注目され国でもその取組みを支援する動きが出ています。

私は、令和6年6月から三浦バイオマスセンター事業を運営する三浦地域資源ユーズ株式会社の社長に就任いたしました。

前述の考え方や社会情勢を考慮しつつ三浦バイオマスセンター事業の運営に努めます。

令和6年7月

三浦地域資源ユーズ株式会社  
代表取締役 奥山浩司